

2019年度学校推薦制度利用に関するアンケート(回答)

no	学部・研究科	性別	内定先	Q1 ご自身の研究内容について教えてください	Q2 内定先で求められる技術力のレベルは自分にとって高いと感じましたか？	Q3 学校推薦のことをどのように知りましたか？	Q4 学校推薦制度を利用してよかったと思いますか？理由もあわせて教えてください。	Q5 学校推薦を利用するにあたり大変だったことはありますか？選考スケジュールや選考内容において、苦労した点があれば教えてください	Q6 制度の利用を検討している学生に向けたメッセージをお願いします。
1	政策・メディア	男	日立製作所 研究開発グループ (エレクトロニクス分野)	Passive UHF RFIDで使用する後方散乱通信の品質改善の研究です。具体的には、符号理論での誤り訂正や信号処理での雑音除去等に取り組んでいます。	普通です。研究に真摯に取り組んでいる先生・先輩の下で真面目に勉強すれば問題ないと思います。	CDPオフィスからのメールで知りました。	良かったと思います。学校推薦の有無で面接時期に違いがある企業が存在します。	学校推薦だと入社意思を通常より早く示す必要がありますので、志望度が高い企業の面接時期が遅いと悩むことになります。	志望している企業があるならとりあえず利用した方がいいと思います。
2	環境情報	男	富士通株式会社 デジタルフロント事業本部	人の顔と表情から受ける第一印象分析(顔写真から受ける第一印象と双方の表情の作り方、顔のパーツの位置関係の分析)	まだコアな部分がわからないが、研究室のほうで求められる能力が高い。開発言語の違い、どこ部分まで開発しているかは別だが、実際に触ったことのある技術を展示フォーラムに行った時にみた。	内定先の人事の方から紹介された(インターン、面談に行った際に)	良かったと思う。内定先の事業部は配属希望が多く、毎年普通入社だと2人ほど(何千人の中から)しか配属されないが学校推薦制度を使うことで自分の志望する部署に入ることができた。同じ境遇のメンバーと早く知り合うことができることも利点の1つ。	学校推薦を取る場合、その志望する会社しか最終的な選択肢がなくなるのでその点についてはすごく悩んだ。本当にこの選択であっているのかどうか？を自分の中で自問自答を何回もした。スケジュール等は比較的早めに教えてくださっている、行きたい企業もそのことについては承知してくれているので問題なし。一番苦労したのは研究室の先生を説得すること(院進がデフォルトな研究室であるため)	学校推薦で受けることを決めてもほくは就活をしていました(就活をしないで社会人になるのは嫌だったので)自分の内定先も学校推薦は部署を希望して出す場合に利用してくださいとのことだったのでこの形をとりました。学校推薦の中でも篩に掛けられるので、しっかり普通に就活するのと同じもしくはそれ以上に準備をきちんとして選考に臨んでください。自分にとって一番良い選択をしていただければと思います。
3	総合政策	女	日本電気株式会社 (セキュリティ戦略本部)	匿名通信システムにおけるUDP接続の可能性に関する研究	内定先で求められる技術力がどれほどのものなのかを知る機会があまりなかったため、わかりません。	内定先の方から紹介されました。	最初は制度を利用したことに本当に良かったのかと迷うこともありましたが、最終的には良かったと思いました。私は選考段階では他の業界とも迷っていたこともあり、内定を辞退できないことから学校推薦制度を利用すべきか否かなりぎりぎりまで迷ってしまったため、自分の選択に不安になることが多々ありました。ただ、面談やOB訪問などを何度もさせていただくことでそういった不安が徐々になくなりました。また、内々定を得るまでの期間も短く、私は企業側からお声をかけていただいた形での学校推薦の利用だったため、精神的な不安は少ない状態で就職活動が行えたことも良かったです。	学校推薦という制度を知り利用を決めるまでの期間が私は特に短かったため、企業に提出する資料作成や面談準備などと時間的な面で大変でした。また、学校推薦は内定辞退ができないので、本当にこの選択で良いのかと不安になることも多かったです。	一般選考よりも期間も短く、試験や面接などの回数も少ないので、第一志望の企業が学校推薦制度を利用できるのであればとてもオススメです。また、第一志望の企業ではない場合でもマッチング面談などを利用することでその企業や職種と向き合い考える機会は十分に与えられると思うので、検討してみるのも良いと思います。
4	環境情報	男	NTTコミュニケーションズ株式会社	研究室全体としては、情報化社会における現状・問題の分析とそれへの対応を、主に制度や法律の側面から研究しています。その中で私は、AIなどの新しい情報技術をどのように社会へ統合していけば良いのかについて研究しています。具体的な研究テーマは「AI/ロボット時代へ向けた法制度—特にロボット税導入に関する検討」です。	私に関しては、高くないと感じた。換言すると、志願者によって異なっていると感じました。私のように基礎的な情報系の技術しか持たない文系寄りの志願者の場合、入社後に人材育成するという前提の上で、現時点での技術力ではなく職業適性・会社適性の観点から判断されていると感じました。一方、内定式での他の(他大学の)同期を見ていると、画像処理やセキュリティなどといった情報分野の研究室出身の理系の方も多かったです。	学校推薦を利用したSFCの先輩から教えていただきました。その上で、塾生HPや学事の就職支援窓口での相談を通じて、より詳細を知りました。	利用して良かったと思っています。一般枠と比べて、学校推薦枠の方が選考が丁寧でチャンスも多いと感じたからです。具体的には、面接ごとにフィードバックを頂けるので最終面接に向けての準備が捗りました。加えて面接回数が一般枠よりも多いので、自分という人間をより丁寧にじっくりと知って頂いた上で判断頂けたと感じました。面接一発勝負に苦手意識があったので、大変ありがたかったです。	選考内容はオーソドックスな面接なので、他社と比較して特段大変だとは思いませんでした。強いて言えば、面接回数が多いのでスケジュールの調整や面談して頂ける社員の方とのメールのやり取りが多く、気を配らなければならないのが大変でした。	推薦制度の対象となっている企業の中で「行きたいな」と思える企業があったならば、まずは就職支援課に相談の上コンタクトを取ってみることをお勧めします。企業によって求めている専門性の程度も違いますので、実際に企業担当者とお話した上で制度利用や自身に可能性があるのかを判断したほうが良いかと思います。加えて推薦対象の企業毎に選考プロセスや推薦状の提出タイミングも異なるので、就職支援課の方に相談して自分の受ける気企業の昨年度の選考プロセスを聞くのを勧めます。